

●第1号議案 2020(令和2)年度 決算報告について

社会福祉法人つばめ福祉会 令和2年度事業報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

1. 支援活動報告

令和2年度は、日々の支援活動や事業運営において新型コロナウイルスの影響を受け続けた年であった[別紙【表1】参照]。多くの取組みを中止・見直しせざるを得なかった為、事業の拡充という訳にはいかなかったが、コロナにより得られたものもあった。職員と利用者が互いに協力し根気強く感染対策を続けたことで、今までとは違う絆の深まりを感じた一年であった。何よりも年間を通して感染者をひとりも出すことなく運営できたことが一番大きな成果であった。

福岡県において1回目の緊急事態宣言が発出された4月中旬から5月末の間、コロナウイルスから利用者や職員、関係者を守る為、通所利用の一時休止を行った。その間、職員は交代で出勤し、在宅ワークの提供や電話・訪問による代替支援を行い、利用者の不安解消に努めた。また自宅待機をしてもらった職員や利用者に対しては休業補償を行った。

6月以降も利用者数や利用時間の制限等を行うことで、三密回避をしながら日中活動を継続した。ただ大人数が集まるイベント(初夏のバスハイク、秋のつばめ祭り)、各施設のレクリエーションは軒並み中止せざるを得なかった。

レクなどができず利用者には寂しい思いもさせたが、4～5月の通所利用一時休止を経験したことで、職員・利用者とも「毎日の当たり前の生活(日中活動)」のありがたみを痛感した。その経験が日々の感染対策に対する意識強化に繋がり、1年間乗り越えることができたと思う。

職員研修や大きな会議もほぼ中止となったが、一部職員はオンラインにて参加した。今後はICT環境を法人全体で整備していくことが課題である。ICT環境の整備により、オンライン研修や会議の充実、効率的な情報共有と事務処理、リモート支援など、現状に対応した形での福祉の充実を図っていく。

2. 収支報告

決算としては増収増益であった。ただし内訳は例年と大きく異なり、コロナ対策支援金収益が含まれる。コロナ関連では以下の2つが収益に大きく影響した。

1) 報酬算定の臨時的な取扱い(コロナで通所できない場合の代替支援)

収益の大部分を占める報酬費に関して、「新型コロナの影響により通所ができない利用者に対し、電話や訪問等による代替支援を行った場合、通所と同等の報酬を請求できる」という臨時的な取扱いが年間を通してあった為、大幅な減収にならず

に済んだ。コロナ代替支援報酬費は全報酬費の 14.7%を占める[別紙【表 2】参照]。
ただ通所利用の一時休止を行った 4～5 月だけでコロナ代替支援報酬費全体の
62.2%を占める。7 月以降はその割合も減っており、今後この臨時的取扱いが終了
した場合も影響は少ないと思われる。(令和 3 年 3 月末をもって終了予定であった
が、感染者が増加傾向にあることから延期となり、現時点では終了時期未定)

2) コロナ関連支援金

全体で 8,550,991 円。そのうち「持続化給付金」「家賃支援給付金」「福岡県家賃
軽減支援金」は就労支援事業収益の減収を補い、事業の立て直しを図る為に利用。
また「障がい福祉慰労金」は対象職員に全額支払い、「感染対策徹底支援金」は感
染対策物品購入に全額充てた。詳細は[別紙【表 3】][事業活動内訳表] 参照。

3. オアシス問題

今回コロナによる影響を最も受けたのが、飲食業を行っているオアシスである。他の
飲食店同様、客足が減ったことや、福岡市の建物の一部を借りていることから休業要請
もあった。授産収入に関してはこの影響が如実に表れている。

しかしコロナの影響を除いても利用者数の減少が著しい。喫茶レストラン部門と軽
作業部門があるが、近年は喫茶レストラン部門に従事する利用者が減っている。店舗を
魅力的にする努力も必要だが、周囲の変化に合わせオアシス自体の構造改革も必要と
思われる。周囲の変化は主に以下の二つ。

- ① A 型事業所の増加。利用者と雇用契約を結ぶ(最低賃金以上が支払われる)就労継
続支援 A 型事業所が、全国・福岡市内でも増えた。業務レベルはオアシスと同等
かそれ以下の事業所もあり、ステップアップの為にオアシスを卒業する方はいて
も、新規でオアシスのレストラン部門に入ってくる方が減っている。
- ② B 型事業所の役割の変化。国の施策と A 型が増えてきたことが影響し、就労継続支
援 B 型は、より障がいの重い方を受け入れる場となってきた。実際、新規利用希望
者は、以前よりも障がいの程度が重く、喫茶よりも軽作業を希望する方が多い。
→今後短期的にはスタッフの人員を削減したことで、赤字幅は減ることが予測される。
ただし中長期で見た時、現在のニーズに対応した事業所作りと改革が必要である。

4. 繰越剰余金について

令和 2 年度決算をもって繰越剰余金が 1 億円を突破した。コロナウイルスの影響が
ある中、皆様のご協力、職員の努力、様々な支援策により増収増益となった。

令和 3 年度夏の賞与も例年通り支給できる予定である。

繰越剰余金は今後、「地域福祉の充実」、「就労支援事業の立て直し」、「ICT の推進」、
「職員の処遇改善」、「ぷらっと・本部の移転」等に適正に利用していく。

就労支援事業報告

● 事業目標

- 1、誰もが安心して元気と自信を取り戻し、持っている力を発揮できる場の提供
- 2、新しい職員体制の構築、働きやすい環境の整備

● 事業報告

- ・ コロナの影響もあり年間で新規契約者1、退所者3名であった。退所理由は転居・体調不良・ステップアップ。2名減ったが、一人当りの利用頻度アップが全体の利用者数増加に繋がった。安心できる環境調整等の成果が出た。
- ・ コロナ感染リスクを考慮し、4/15～5/31は通所利用休止とし、電話や訪問、在宅ワークの企画提供を行った。
- ・ 6月より通所者数も戻り、前年度を上回る数字となった。通所利用のみでも前年と同数。
- ・ 4月常勤1名入職。8月非常勤1名退職。3月非常勤1名産休に入った。スタッフ担当表にて業務整理を行った。

一日平均利用者数

(人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R1年度利用平均	16.5	15.0	15.1	15.5	13.3	16.2	17.0	15.5	16.0	15.4	16.8	15.7	15.7
R2年度利用平均	16.6	18.4	17.1	16.8	15.6	16.2	17.1	16.9	16.4	15.5	15.4	15.7	16.5
通所	7.6	4.2	15.7	16.0	15.0	16.1	17.0	16.7	16.0	14.1	15.0	15.6	14.1
在宅支援	9.0	14.2	1.4	0.8	0.6	0.1	0.1	0.2	0.4	1.4	0.4	0.1	2.4

授産への取り組み

● 活動目標

- ・ お互い協力しながら、やりがいと責任を持って、楽しく作業が行えるようにする
- ・ 主力のシフォンケーキは、ポスティングや営業、SNSで宣伝し、店頭販売を強化していく
- ・ 販売できる手芸作品をメンバーと共に企画開発し、仕事として定着できるよう販路開拓を行う

● 活動報告

- ・ グリーンコープと交渉した結果、作業単価が4～5円から一律7円に上昇。メンバーのやる気アップに繋がった。
- ・ 職員の指導でペロルに携われるメンバー増。トーションは作業効率アップで時間短縮。それぞれ納品数が増え増収。
- ・ 自主製品はコロナにより販売機会が無くなり、販売計画も見直した為、収入は激減した。
- ・ 自主製品の減収分全額ではないが、グリーンコープやペロル、トーションの増収分でカバーできた。
- ・ メンバー作の手芸品をmomoショップに卸した。販路開拓とマーケティングにより作るべき物が絞れた。

● 課題

- ・ メンバーの高齢化に伴う身体機能の低下が多く表れた。できていた作業ができなくなったり、作業精度が落ちているにも関わらず、本人にその自覚が乏しく、職員のフォローを必要とする場面が増えてきている。
- メンバーに合う新たな仕事や工程の開発。本人の自尊心・納得感に配慮した上での配置転換等を検討。

その他

● 実習の受入

- ・ 令和2年度の実習の受入れは0であった。

● 研修計画

- ・ 計画していた研修はほとんど中止。感染リスクが少ない時期や、オンラインにて参加できた研修は以下の通り。
「就労支援事業所研修会」「凸凹ネット研修会」「第4回福精連大会（訪問型家族支援の講演）」
「社会福祉施設保健衛生講習」「就労支援基礎研修」「実践ピアスタッフ研修会」「リーダーシップ研修」
- ・ 事業所内で勉強会を行い、研修が受講できない分を補った。

● 年間行事等

- ・ 計画していた行事は、感染リスクを考慮しほとんど中止とした。感染対策が十分取れるもののみ行った。
屋外で行った行事は、「初詣」、「花見散策（食事なし）」
屋内では「クリスマス会」と「食事会」をつばめ工房で感染対策を十分に取った上で開催。食事は個別に提供。

R2年度 職員体制	月	常勤	非常勤	常勤換算
	4～7月	3	4	5.5
	8～3月	3	3	4.9

令和2年度 就労支援事業報告

● 事業目標

- ・ 利用者支援：利用者のニーズ・特性に応じた支援、通所の定着、ペースの維持・向上
- ・ 職員体制の見直し：業務内容の整理と役割の明確化、専門知識の応用
- ・ 就労支援：利用者に応じた就労への準備支援、就労アセスメント等の活用
- ・ 地域、館内連携：舞鶴地区での行事参加、あいれふ館内でのイベント協賛および協力体制の強化

● 事業報告

- ・ 緊急事態宣言に伴い、4月11日から5月31日まで休所した。再開後も感染予防に対処した運営を行なっている。
- ・ 喫茶のシフトは年度末まで15：30であった。また、喫茶業務に就く利用者が少なく、今後の課題となっている。
- ・ 体調不良などから通所が停滞している利用者も多く、またコロナ禍の影響で新規の受入れも進まず、通所実績が昨年度より下回った状況である。
- ・ 地域行事等がコロナ禍で全て中止となり、地域との連携が手薄くなってしまった。
- ・ 将来、一般就労を希望する利用者の就労移行支援事業所への見学・体験をすすめ、3月末で退所されている。
- ・ 1月よりサービス管理責任者が管理者を兼務となり、常勤3名、非常勤2名の体制となった。

一日平均利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R1年度利用平均	9.3	9.3	9.2	8.8	8.7	9.0	8.8	9.4	8.5	7.5	8.0	8.3	8.7
R2年度利用平均	8.7	9.7	7.9	7.4	6.7	7.6	7.6	7.2	7.3	6.7	6.0	6.3	7.4
通所	2.6	1.2	5.8	7.4	6.7	7.6	7.1	6.8	6.9	6.5	6.0	6.3	5.9
在宅支援	6.1	8.5	2.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4	0.4	0.2	0.0	0.0	1.5

授産への取り組み

● 事業目標と計画

【喫茶】

- ・ 働き方改革：職員、利用者ともに働きやすい環境づくり
- ・ メニューおよび店舗環境の見直し、充実：主力商品の創出、リピーターの確保と働きやすさ
- ・ 利用者主体の店舗づくり：主体的に働く一員個々の目標に沿った行動

【軽作業】

- ・ 訓練機会の提供：体調、能力に合わせた取り組み、他者交流
- ・ 一定作業の確保：安定した収入源、請負作業の取引拡大または自主製品の検討
- ・ 個々の課題への対処力：課題・目標に沿ったアプローチ→通所意欲向上→作業効率向上

【受付～珈琲Slowth～】

- ・ 訓練機会の提供：利用者主体の場
- ・ 店舗との協同営業：技術を活かした販路見直し

● 事業報告

- ・ 喫茶の営業時間を10：30～16：30とした。
- ・ 感染症対策の為、テーブル配置の見直しやメニュー表などのテーブル上の配置物を撤去している。
また、お客様退店後のテーブル、椅子の消毒を徹底している。
- ・ あいれふ内のイベントの縮小（集客数減、分散化、時短化など）もあり、土日祝日の来店が減少していたが、少しずつ日曜日の団体予約が増え、売上が持ち直してきている。
- ・ Slowthは9月でいったん閉店。次年度、スペースの有効活用を検討していく。
- ・ いずみへの昼食弁当の配達を先方の事情と当方の業務改善の為、3月末で契約解除した。
- ・ 軽作業は、11～12月はビジネスサポートからの作業があったが、1月以降発注が無かったため、就労支援連絡会経由で(株)トーションからの下請けを3月より受注している。

その他

● 実習の受入

- ・ コロナ禍の影響により、受入れ無し。

● 職員研修（オンライン研修受講の環境が不十分で、研修参加が十分に出来なかった）

- ・ 会議…「あいれふ定例会」「福岡市精神保健福祉協議会」「スタッフ会議」「メンバー会議(利用者の会議)」
- ・ 研修…「相談支援従事者現任研修(更新コース)」「苦情解決従事者研修(Web受講)」

● その他行事、イベント

- ・ 花見（食事近隣なし。公園の桜を見に行った）
- ・ クリスマス会（喫茶店舗で開催）

R2年度 職員体制	月	常勤	非常勤	常勤換算
	4～12月	4	1	4.5
	1～3月	3	2	4.2

令和2年度 就労支援事業報告

● 事業目標

- 1、利用者と職員が本来の自分を発揮し、笑顔でいきいきと過ごせる自由な雰囲気のある場を作る。
- 2、利用者全員に十分に目と心を行き届かせ、それぞれの事情に沿った個別の支援を強化する。
- 3、作業工賃のアップを目指す。
- 4、事業所として常に前を向き、小さくても何か新しいことに取り組む前進する姿勢を持つ。

● 事業報告

- 1、R2.4.15～5.16迄新型コロナ感染拡大により閉所とし、週5日利用者全員に毎日電話支援を実施
市の施策で電話支援者も通所者と同じ報酬請求ができたので報酬収入が減額となることはなかった。
電話により利用者の健康状態や生活の様子も把握できてお互い安心できた。
- 2、国や市の施策でコロナ関係の支援金を受けることができ、消毒・衛生関係製品や空気清浄機、
空気清浄機付エアコンなどを購入した。
- 3、コロナ禍の落ち着かない中、自粛のため外出できなくなったり、体調をこわした利用者も
数名おり、通所による利用者減につながった。
- 4、今年度、利用者2名、ボランティア1名の方々が亡くなられた。

一日平均利用者数

(人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R1年度利用平均	16.9	16.6	16.9	16.0	15.7	15.5	16.2	16.9	16.5	16.2	17.7	17.8	16.6
R2年度利用平均	18.5	18.9	17.1	16.2	16.1	15.8	16.1	16.8	17.4	17.0	16.5	16.5	16.9
通所	9.3	5.6	14.1	15.2	14.9	14.4	14.7	15.5	15.6	14.9	15.0	15.0	13.7
在宅支援	9.2	13.3	3.0	1.0	1.2	1.4	1.4	1.3	1.8	2.1	1.5	1.5	3.2

授産への取り組み

● 活動報告

- 1、コロナの影響で請負作業が一つ減ってしまったり、ねぎの成育不調による作業の休止があった。
- 2、他の作業の工賃はコロナの影響その他で減額してしまっただが、グリーンコープの帳作業の
工賃を増額していただいたので、利用者の工賃時給を下げることは避けられた。
- 3、自主製品については布製のマスク作りに取り組み、かなりの収益を上げることができた。
レジン作品も着実に売れており、魅力的な作品作りに励んでいる。
- 4、スタッフの細かい指示がなくても自分の気付きで自主的に動ける利用者が増えた。
- 5、コロナの影響で、行事や料理実習などが中止になり、利用者の楽しみ事が減ってしまった。

● 課題

- 1.安定した作業の確保。 利用者の時給を昨年度よりは上げていきたい。
- 2.コロナ支援電話の該当者が現在ほとんどいなくなり、その分の報酬請求が出来なくなる。安定した
来所者数を確保する必要があるが毎日来所できる利用者が少ない。
- 3.新しい事業（仕事）の開発。利用者のやりがいや工賃アップを目指し魅力的な事業所としたい。

その他

● 実習の受入

- ・ 精神保健福祉士実習指導者1名在籍。福岡こども短期大学より1名

● 職員研修

- 「相談支援専門員現任者研修」「S S T基礎編研修会」
- 「メリデン版訪問家族支援講演会」

● 行事

- ・ 新型コロナ感染状況を見ながら、その都度検討の予定。

R2年度	常勤	非常勤	常勤換算
職員体制	3	3	4.1



R3.3 室見川へ散歩だけのお花見

令和2年度 自立訓練（生活訓練）事業報告

● 事業目標

- 1、安心できる居場所であると同時に、夢に向かって前進できる場所を作る。
- 2、自立し安心して楽しく日常生活が送れることを目的としてプログラムを行う。
- 3、利用者の自尊心の回復と生活上の目標の設定を支援する。
- 4、それぞれの個別支援計画に基づき、一人一人の状況に応じた個別の支援を充実させる。

● 事業報告

- 1、さまざまなプログラムを企画して、利用者の生活の活性化を図った。 コロナ禍で様々な制限がある中で利用者の気分転換になるような内容を多く企画した。合唱などは中止した。
- 2、4月～5月の閉所期間中、利用者全員に電話支援にて生活の様子や健康状態の聞き取りを行う。
- 3、R2.9月より週二日男性スタッフ（ぷらっととの兼務）の増員を行い、できることが増え活気が出た。
- 4、毎日通所の利用者は2名。新規メンバーは不定期な方が多く、安定して通える利用者が増えない。
- 5、少人数の為、家庭的で和やかな雰囲気の中で身近で生活に即した寄り添う支援ができています。

一日平均利用者数

(人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
R1年度利用平均	—	—	—	2.1	2.3	2.8	3.0	2.5	3.4	2.7	4.0	3.5	2.9
R2年度利用平均	3.4	3.6	4.0	3.1	3.0	3.1	2.7	2.8	3.6	3.8	3.1	3.1	3.3
通所	2.0	1.4	3.0	2.5	2.6	2.4	2.3	2.6	3.3	2.8	2.5	2.5	2.5
在宅支援	1.4	2.2	1.0	0.6	0.4	0.7	0.4	0.2	0.3	1.0	0.6	0.6	0.8

活動報告と課題

● 活動報告

- 1、作業訓練として、スタッフ制作のそらいろ号月刊誌の発送作業を行い、関係機関に送付。利用間い合わせの電話が増え周知のよい機会となり、二名の新規メンバー入所につながった。
- 2、活動では畑作業を多く取り入れ、自然の中での作業が利用者のよい気分転換になった。愛情をかけたとれたての野菜を調理実習などで食べることで収穫の喜びを感じることができた。
- 3、制作活動にも力を入れ、エコバックやフラワーキャンドル、しめ縄、リースなど季節に沿った創作を行い、ロビーや訓練室に飾り季節感を演出し雰囲気が良くなった。
- 4、円滑な社会生活を送るためのコミュニケーション学習を行った。SSTはゲーム形式のものを取り入れ利用者の興味を引くように工夫した。

● 課題

- 1、2年（状況により1年延長可）の期限がある為、該当利用者卒業後の利用者減少が懸念される。
- 2、安定して毎日通所できるメンバーが2名のみで、一日の利用者数が伸びない。新規利用で毎日の通所を希望する人はほとんどいない。（週1回、月2回など。）
- 3、来所できていない利用者宅への訪問を早い段階で開始して、事業所への通所につなげたい。
- 4、見学間い合わせで送迎の不可をよく聞かれる。送迎範囲に限度があり通所をあきらめる方も多い。送迎が可能になれば利用者増が見込まれるが、距離的人員的にこれ以上のコース拡大は厳しい。

その他

● 実習の受入

- ・ B型に準ずる

● 職員研修

- ・ B型に準ずる

R2年度	常勤	非常勤	常勤換算
職員体制	2	1	1.5



地域活動支援センター事業報告

● 事業目標

- ・ 地域で暮らす障がい者が安心して過ごせる居場所となるよう、利用者の孤独感を軽減し、楽しみや役割を見出せる支援を行う。
- ・ 利用者が地域で豊かな生活を送れるよう、地域社会と交流する機会の充実を図る。
- ・ 職員の成長のため、研修会などに積極的に参加する。

● 事業報告

- ・ コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、利用者が安心して過ごせるよう温かい雰囲気づくりに努めた。
- ・ 感染症対策を行いながら、可能なサークル活動は地域ボランティアにお願いし地域交流を図った。
- ・ 研修の機会が限られる中、情報を収集し合いながら学習に努め、オンライン研修にも積極的に参加した。

ぶらっと 平均利用者数															(人/月)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
登録者数累計	R1年度	112	125	133	137	141	143	148	149	78	84	95	105	—	
	R2年度	106	106	115	116	117	118	121	123	62	69	71	73	—	
来所者数	R1年度	674	741	647	723	651	602	845	688	645	629	582	583	668	
	R2年度	142	109	369	376	434	321	426	424	474	311	313	403	342	
電話相談件数	R1年度	491	475	389	595	605	499	542	509	502	537	471	503	510	
	R2年度	724	839	713	935	763	606	626	607	700	702	701	769	724	

Ⅰ 型事業への取り組み

● 目標・課題

- 1、個別支援の充実
- 2、地域住民への理解促進
- 3、職員の研鑽

● 具体的な内容

コロナウイルス感染症対策で、利用者の心身の安全確保に苦心した。対策として、来所時間と人数の制限、館内消毒、マスク着用・手指消毒の徹底、検温、体調アンケート、食事場所や座席の指定、換気、アクリル板設置などを行った。

- 1、面談は、短時間ながらも利用者への十分な支援を心掛けた。また、来所時間を短縮した分は電話相談の時間を増やすなどの工夫をした。心の安定と経済的支援のため食事提供は切要で、感染対策を特に徹底しながら行った。フリースペースでは共同作業を取り入れ、利用者同士が関り合いながら各々の思いを表現できるよう工夫した。
- 2、市内感染の状況を見ながら地域ボランティアの力を借りて活動を行い、障がいへの理解の促進に努めた。
- 3、オンライン研修の参加、新聞、SNSや資料等をスタッフ間で共有し意見交換などで勉強不足を補った。

その他

● 実習の受入

- ・ 9月から11月にかけて、九州医療専門学校とフチガミ医療福祉専門学校より計4名の実習生を受け入れた。実習生に精神保健について理解を深めてもらうと同時にスタッフも改めて学びを深める良い機会となった。

● 職員研修

- ・ オンラインによる実習指導者講習(1名)を受講。防火管理責任者(1名)受講。
- ・ 精神保健福祉センターによるオンライン研修を職員全員で受講した。SNSで行われている研修も共有した。

● 居住サポート事業

- ・ グループホームから一人暮らしを希望されていた利用者の相談に応じ、資金繰り、物件探し、入居に必要な手続きに関する相談・調整、転居の手伝い、転居後の生活に関する支援等を行った。

● 資金不足解消のための取り組み

- ・ 施設家賃負担を減らすため、不動産業者の他、主に福祉施設へ物件情報を提供している古屋空家調査
- ・ 連絡会などに紹介を依頼し、8件の物件を見学した。
- ・ 月1回の臨時休館と月2回の短時間開所で、勤務時間の短縮を図った。
- ・ 市へ、退院支援・ピアスタッフ配置などを機能強化事業として検討してもらえるよう要望書を提出している。

R2年度 職員体制	月	常勤	非常勤	常勤換算
	4～12月	3	3	4.6
	1～3月	2	4	4.6

取り組みのねらい

● 区ごとのネットワークの構築

- ・地域包括ケアシステムの構築に向け、拠点整備、ネットワーク構築の検討を行う。
- ・「西区障がい者等サポートネットワーク」(西サポネット)の運営。
- ・関係機関のネットワーク構築に向けた体制整備を進める。

● 区内の相談支援事業所のネットワークの構築、専門的な助言・人材育成

- ・ネットワーク構築：西区相談あつまる会を開催(目的：談支援専門員・相談員の情報交換及びボトムアップを図る)
- ・相談支援事業所のボトムアップを図り、相談援助の質の向上を図る

● 区内の地域福祉の基盤づくり

- ・現行のサービスでは対応が難しいケースや内容がある。
→【多相相談窓口との連携を意識した支援の展開】
～各専門窓口では対応できないケース、相談内容に対し相談窓口間で連携・ネットワークの構築。

● 区内での緊急時の対応に関する取り組み

- ・新型コロナウイルス影響下での多職種連携の構築

主な取り組み内容

● 区ごとのネットワークの構築

- ① 西サポネットの運営
 - ・実行委員会の開催(6回)
 - ・事業種別のアンケートの実施
 - ・研修等の開催(3回)

● 区内の相談支援事業所のネットワークの構築、専門的な助言・人材育成

- ①【介護保険との連携】～地域包括支援センターを講師に招き研修会の実施
- ②【専門機関の役割理解(就労支援)】～ハローワーク、就労支援センター、地域生活・就労支援センターを講師に招き研修の実施
※①：ハイブリッド形式での開催、②オンライン形式で開催

● 区内の地域福祉の基盤づくり

- ・ゆうゆうセンターとの勉強会
- ・ペアレントメンターカフェの実施
- ・ピアスタッフの啓発、活用
- ・H29～R1年度までの相談ケースの整理を行い、地域課題の抽出、整理を実施

● 区内での緊急時の対応に関する取り組み

- ① 西区内事業所への消毒液の提供

成果

● 区ごとのネットワークの構築

- ・西サポネット実行委員会の開催
→ リモート開催の方法検討と実施。事業種別の活動共有。
- ・事業種別のアンケートの実施、研修等の開催
→ 事業種別のニーズの把握、それに沿った活動の実施。

● 区内の相談支援事業所のネットワークの構築、専門的な助言・人材育成

- ・各テーマについて、基礎知識や支援内容等の理解を深め、今後の連携や支援につながる下地作りができた。
- ・リモート式研修が実施できた(感染症対策)。

● 区内の地域福祉の基盤づくり

- ・地域課題の整理～各課題について、区部会委員により対応の検討を実施
→ 課題別に対策委員会の立ち上げを検討

● 区内での緊急時の対応に関する取り組み

- ・西区内事業所への消毒液の提供
→ コロナ禍における事業所ごとの対応及び運営状況の把握。

今後の課題・取り組み

- 感染症対策と共に、相談員の情報交換及びボトムアップを図れるよう、効果的な方法を検討していく。
- 災害時検討委員会の発足～事例の検討から、災害に向けた対応さくの考察、及び行政を含めた対応の実施を行う。

R2年度	月	常勤	非常勤	常勤換算
職員体制	4～12月	5	0	5.0
	1～3月	5	0	5.0